

【関連団体報告】

NPO法人秋田ふるさと応援団便り

2020年から2022年にかけても続いている新型コロナウイルスの蔓延により秋田ふるさと応援団も活動を自粛せざるを得ない時期が続いている。秋田応援チャリティーの集いは2019年8月24日の第8回が最後となり、高校スポーツ応援は2020年1月の春高バレーの後しばらく応援できなかった。2021年には一年延期された東京オリンピックが無観客で開催された。この間の秋田ふるさと応援団の状況を述べる。

2021年9月に予定していた秋田応援チャリティーは新型コロナ感染状況や会場の入場制限などを勘案して早々と中止と決定した。

2021年4月、忠犬ハチ公を題材にした日露共同制作映画「ハチとパルマの物語」の映画鑑賞券を会員に配布して秋田県をアピールした。

1871年(明治4年)の廃藩置県により秋田県が誕生してから150年目の2021年8月28日付秋田魁新報朝刊の「秋田県誕生150年記念」記事に秋田ふるさと応援団も広告を掲載した。

2021年10月10日秋田ふるさと応援団(7月末決算)事業報告書が東京都生活文化局都民生活部管理法人課に10月4日に收受された。引き続きNPO法人として活動を継続していく。

2021年12月新型コロナウイルスも収束するかと希望を持ったが感染力の強いオミクロン株が再び猛威を振るい年末・年始の高校スポーツ全国大会の応援自粛要請があった。

2021年12月23日に開催されたウインターカップ 第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会に出場した秋田北高校の学校関係者50名までとされた応援枠に、若干の余裕があり会場で応援することができた。初出場の秋田北は駒沢体育館での女子1回戦で京都両洋(京都第2)に78-90で敗れた。前半リードの場面もあったが、終盤で突き放された。両校ともに初出場で特に長身の選手もいなくて均衡したよい試合だったが、京都の3ポイントシュートがよく決まっていた。



ウインターカップ
2021.12.23 駒沢体育館

2020年1月の春高バレー以来ほぼ2年ぶりの現地応援であった。

2021年12月の全国高校駅伝では秋田工業高校が9位となり2年生大野聖登選手は6区で6人を抜き秋田県勢29年ぶりの区間賞の活躍をした。秋田県勢の一桁順位は同校が4位入賞した2014年以来7年ぶり。

2022年1月の春高バレーでは雄物川高校が強豪校を連覇し春高バレー初の準決勝に進出、全国3位となった。

秋田中央高校OBの大山正義氏が総合プロデューサー、当応援団理事の石谷洋子監督、船木一美プロデューサーの映画「みちのく秋田・赤い靴の女の子」がコロナ渦のため制作を中断していたが、2022年公開の予定。2021年12月の理事会で石谷洋子理事が「よい作品が出来上がった」と。



令和3年度第1回NPO法人秋田ふるさと応援団理事会
2021.12.18 東中野区民センター

「昨年11月から先行販売した秋田県産新米種・高級ブランド米『サキホコレ』の売れ行きが順調で3ヶ月でほぼ完売したが県外での知名度が低いためか、販売の伸びが少し鈍かったようだ。秋田の友人に聞いたところ噛むほどに甘く大変美味しいようだ。2021年産米の食味ランキングで最高の特Aに評価された。今年は作付けを大幅に増やすようだ。2022年に全会員宛『サキホコレ』2キロを送り食の良さを、友人・知人等にアピールしていただき「秋田ふるさと」を応援の予定。」(三平理事長より)

2022年3月になってオミクロン株がようやく収束の兆しが見え、全国的に3回目のワクチン接種も進みウイズコロナの時代を見据え、2年以上の自粛を迫られた状況から開放されるやに見える。

秋田ふるさと応援団の活動も春の訪れとともに期待されるところ。

2022.03.20 記

● 記事寄稿者

秋田ふるさと応援団 広報担当 理事

赤川 均 (昭和41年電気科卒)



<http://akita-furusato.main.jp/>